

## あとがき

本報告書は、二〇一七年度大阪府立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター「研究科プロジェクト推進研究」に採択された課題「伝統芸能の近代化とメディア環境」の研究成果をとりまとめ、刊行するものである。研究メンバーは以下の七名からなる。

研究代表者 久堀裕朗 文学研究科・教授（国語国文学）  
共同研究者 松浦恆雄 文学研究科・教授（中国語中国文学）  
菅原真弓 文学研究科・教授（アジア都市文化学）  
海老根剛 文学研究科・准教授（表現文化学）  
劉慶 文学研究科・UCRC特別研究員  
坂本美加 文学研究科・UCRC特別研究員  
森節男 文学研究科・UCRC特別研究員

日本の各種伝統芸能（演劇）は、それらが成立・成熟した時代の様式を今日に至るまで保持してきたことが一つの特徴であるが、一方で明治以降、その内容は質的に大きな変化を遂げてきたことも事実である。そうした変化の背景として、例えば近世身分制の解体や、上演環境（劇場建築・経営）の変化など、様々な要因を挙げることができるが、メディア環境の変化もその大きな要因の一つに数えられる。本研究は、近代以降の伝統芸能の変容を、主にメディア環境との相関関係の中に捉えようとするものである。共同研究に当たっては、考察の対象や時代を狭い範囲に限定するのではなく、日本と中国の事例の比較、歌舞伎と文楽の場合の相違など、様々な比較の視点を導入しながら、多分野の研究者が集うことによって、従来の研究方法にとらわれない多角的研究を模索し、

この方面の研究において新たな視座を獲得することを目標とした。具体的には以下の通り全5回のプロジェクト研究会を開催して、メンバーの関心を共有し、研究を深めていった。

第1回	11 / 16	久堀裕朗「文楽と淡路人形芝居の近代」
第2回	12 / 21	菅原真弓「雑誌『歌舞伎新報』に掲載されるビジョアルイメー」
第3回	1 / 12	松浦恆雄「新越劇 劇団と観客の交渉史」
第4回	2 / 1	海老根剛「文楽とモダニティ（無知な観客）の歴史のための予備的考察」
第5回	3 / 19	森節男「淡路座の『明治日清戦争記』について」 坂本美加「昭和の文楽興行について」

また以上の研究会での検討を経て、二〇一八年三月二十四日（土）に公開報告会・演奏会「伝統芸能の近代化とメディア環境」を開催し、本研究プロジェクトの成果を広く一般に公開した。報告書の原稿のとりまとめが報告会に先行したため、すべての成果を報告書に盛り込むことはできなかったが、まだそれぞれに研究を進展させていく余地を残しているので、今後の課題としたい。

なお報告会には演奏会を組み合わせ、今回復曲された『大江山酒呑童子』保昌屋敷の段を竹本友庄・鶴澤友吉のお二人に語っていただいた。準備の段階から種々ご協力いただいた公益財団法人淡路人形協会（淡路人形座）、及び演奏者のお二人に深く感謝申し上げます。

（久堀裕朗）

---

「研究科プロジェクト推進研究」成果報告書

『伝統芸能の近代化とメディア環境』

平成三十年三月三十一日発行

編集 久堀 裕朗

発行 大阪市立大学大学院文学研究科

都市文化研究センター

〒五五八―八五八五

大阪市住吉区杉本三―三―一三八

電話〇六―六六〇五―三一四

印刷 博進印刷株式会社

〒五五九―〇〇〇二

大阪市住之江区浜口東二―七―二四

---